

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (2)

— 総 論 —

日本樹木医学会富山県支部
樹木医 西村 正史

庭木として利用されている樹木には、クロマツやアカマツに代表される針葉樹、季節毎にきれいな花を提供してくれるクチナシやハナミズキ、さらには秋にすばらしい紅葉を提供してくれるモミジ類などがあります。

ところで、富山県内ではどのような樹木が庭木として利用されているのでしょうか。花と緑の銀行が発行した「とやま緑づくり」には、一般住宅に利用されている樹木の種類が、和風向き、洋風向き、玄関前の低木または低い生垣、車寄せ（正面）に分けて記載されています（表-1）。和風向きではクロマツやアカマツなどの常緑樹が庭の中心に植栽されてその対比としてモミジやウメなどの広葉樹がセットで植栽されることが基本であること、洋風向きでは花木が適していること、玄関前ではツツジ類などの低木が適していることなどが記載されています。庭木として個々の樹木の特徴を述べるには紙面がととも足りません。「とやま緑づくり」には、個々の樹木についての特徴、取り扱い方、管理と手入れ、病虫害対策、利用などが丁寧に記載されていますので、この書物を参考にして頂ければ幸いです。

庭木の管理では病虫害対策と樹木の樹勢を健全に維持することではないかと思えます。前者では、

①葉が急に少なくなり葉を食っている幼虫がいる、②糞が地面に落ちている、③葉が糸で綴られており中には幼虫がいる、④虫コブが葉にある、⑤葉の色が薄くなり虫眼鏡で見ると小さな虫がいる（ハダニやグンバイムシなど）、⑥病気に特有な病斑が葉や枝にある、などが基準になるかと思えます。対策として重要なのはこのようなサインを早期に発見することです。早期に発見できれば薬剤に頼らなくても対応策をとることもできますし（例えば、アメリカシロヒトリの巣を切り落として足で踏みつぶす）、薬剤を利用することになっても、少量の散布で済ますことができるという利点があります。

後者では樹木の状態を観察して、異常なサインを早く見つけることが大切です。異常なサインとしては、①葉量が少なくなった、②樹木の先端部分の枝が枯れ始めた、③根元から萌芽が多数でている、などがあります。病虫害がいないにも関わらず、このような症状が見られるようになったら、多くの場合、根の生活圏である土壌に何らかの原因があるというサインです。造園関係の専門家に原因とその対応策を立ててもらい、実行してください。

表-1 一般住宅における植栽と樹種

区 分	植 栽	樹 種
和風向き	庭の中心に真木をおく。常緑樹が適する。	クロマツ、アカマツ、ラカンマキ、モッコク、キンモクセイ、シラカシ、モチノキ、タイサンボク、コブシ、ウメなど
洋風向き	明るい庭づくりで花木が適する。直線的、曲線的に植栽し刈り込んで美しいもの。	ハナミズキ、ドウダンツツジ、アベリア、キヤラボク、イチヨウ、カイヅカイブキ、コウヤマキなど
玄関周辺の低木または低生け垣	内生垣などで、家の品格を表すための低木を入れる。	キヤラボク、イヌツゲ、サツキ、ヒラドツツジ、オオムラサキ、クチナシ、アベリア、ヤツデ、ツバキ、サザンカ、アジサイ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど
車寄せ周辺の樹	景観を強調し、家の品位を出すための樹種の選定。	ラカンマキ、クロマツ、イチイ、スイリュウヒバ、モチノキ、タイサンボク、キンモクセイ、ヒイラギなど